

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

# JAPAN NOW

## 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第80号 発行日2011年11月25日

### Contents

札幌で観光立国フォーラム	1
札幌で観光立国フォーラム講演内容	2
霞が関ニュース	3
アメリカこぼれ話、イタリヤ雑感	4
ブータン紀行、COLUMN	5
城下町と観光、NEW SPOT	6
NPOからの提案、アメリカ旅行通信①	7
お天気の話、編集後記	8



「観光立国フォーラムin札幌」の会場・ライフォート  
札幌から見た中島公園の紅葉(10.28)



紅葉の中島公園から見上  
げるライフォート札幌

### 第7回「観光立国フォーラムin札幌」開く

恒例となった札幌でのフォーラム（NPO法人「JAPAN NOW観光情報協会」主催、北海道新聞社後援）は、堤JN協会理事の初司会で開会。

まず松尾道彦・JN協会理事長が開会の言葉。

「3・11の大震災で観光客は激減したが、北海道は中国はじめアジアからの入りこみが戻りつつある。更なる復活を目指し頑張りましょう」と述べた。

続いて、北海道知事、札幌市長、北海道運輸局長が来賓の挨拶（いずれも代理出席）。

このあと前田隆平・国土交通省国際統括官、坂上勝也・メディカルツーリズム北海道代表、須田寛・東海旅客鉄道相談役が、講演した。（概要は2面に）

参加者は250名と、盛会だった。

講演の後、懇親会に移り、多くの参加者が講師やJN関係者を交えて懇談した。

なお、今回も須田氏が自著「昭和の鉄道」を無料配布、会員の大塚食品から飲料水の寄贈があった。



### 武家の古都・鎌倉を文化遺産に

#### 国土省、文化庁がユネスコへ推薦書

国土交通省、文化庁は9月22日、世界遺産条約関係省庁会議を開き、武家の古都・鎌倉を世界文化遺産とするため、その推薦書をユネスコに提出することになった。文化遺産推薦の理由は、鎌倉について

「戦士階級に属した武家が12世紀末の日本において古代社会の貴族支配から中世・近代へと続く武家支配への移行という大変革をもたらした政権を樹立し、その構築・運営した政治支配体制から武家文化を生み出した」としている。

主な構成遺産は鶴岡八幡宮、建長寺、鎌倉大仏、円覚寺など。平成25年夏には世界遺産委員会で審議される。鎌倉は古都保存法により京都市、奈良市とともにその歴史的な風土が保存されている。歴史的な風土とは、我が国の歴史上意義を有する建造物、遺跡などが周囲の自然的環境と一体をなして古都における伝統と文化を具現、形成している土地の状況をいう。

### JR東、東海、西、九州に日本鉄道賞

#### 新青森・鹿児島中央の新幹線が全通し

鉄道の日実行委員会は9月3日、鉄道運輸機構、JR東日本、東海、西日本、九州に対して今年の日本鉄道賞を贈った。これらの団体やJR各社は昭和34年の東海道新幹線の着工以来52年の歳月を経て昨年12月に東北新幹線が新青森まで開業し、今年3月には九州新幹線が全線開業したことで青森から鹿児島まで新幹線で結ばれた。また、世界最長の複線断面の陸上トンネルである八甲田トンネル（26キロ）など高度な技術力により建設したことや新型高速列車の開発導入、大幅な所要時間の短縮、沿線都市の発展が評価された。

今回の日本鉄道賞には、JR貨物の環境に優しいクリーンな機関車の開発、JR東海のリニア・鉄道館の開館などが応募した。

## オープンスカイと国際化が、観光の目玉に！ 国土交通省国際統括官・前田隆平氏



国交省初代の国際統括官となった前田氏は、この役職の大きな仕事として、①オープンスカイ政策 ②国際化の推進を挙げ、観光推進の大きな目玉になる、と次のように語った。

オープンスカイ政策とは、世界的に航空ルートの自由化、参入企業数制限、便数制限の撤廃などを目指すもので、2007年、当時の安倍政権が打ち出した「アジアゲートウェイ」構想がスタートとなった。

わが国では、羽田空港の第4滑走路と成田空港2本目の滑走路完成によって、首都圏での発着可能数が現在の年間53万回から75万回弱（平成25年目標）に増えることが、きっかけとなる。

加えて日系のLCC（格安航空会社）の誕生が競争力の強化につながり、オープンスカイへの道が大きく開けることになる。

これまで日本は、有力なHUB空港（中核空港）を持っていないため、先進HUB空港である韓国の仁川空港などに、乗客を奪われがちだった。

国際統括官としての最大の仕事は、このオープンスカイ政策を、アメリカをはじめ欧州、アジア各国との二国間交渉で推進していくことである。

次に、取り組むべき課題は、わが国が誇る新幹線などの先進技術を海外展開すること。これまでもODA（政府開発援助）で、開発途上国のインフラ整備を推進してきたが、私としてはハード、ソフトと人材育成をパッケージとした“売り込み”を支援、推進したい。高速鉄道が代表的なプロジェクトであり、米国、ベトナム、ブラジルなどが候補となる。

オープンスカイの推進、開発途上国のインフラ整備支援は、我が国への海外観光客の誘致に、大きな意味をもつものと確信している。

## メディカルツーリズムで北海道振興を！ メディカルツーリズム北海道代表・坂上勝也氏

「メディカルツーリズムの現況～北海道に商機（勝機）あり～」と題して、坂上氏は以下のように述べた。

メディカルツアーとは、言葉の通り医療（検診、治療）と観光をセットにした旅行のこと。とくに中国やロシアなどでは、自国の医療に不信感を持つ人が多く、世界最高水準とされる日本に来て、各種の検診を受けたい、そして出来れば治療もしてもらいたいと云う要望がある。

ただ、現在は『医療法』の規制があつて、「日本に来て検診をうけ観光を楽しみましょう」と簡単には広告が打てない、旅行商品を売り出せない状況。

で、メディカルツアーは、韓国、ドイツに先行されているのが現在の姿である。

しかし、わが国には大きなチャンスがあることも事実だ。すぐれた医療技術、加えて美しい自然、なかでも北海道は、メディカルツーリズムにとって最高の条件を備えていると言える。

メディカルツーリズムを進めるうえで大切なことは、「医療通訳士」つまり医療用語をキチンと通訳できるスタッフを揃える、各種検診機器など基準を満たした病院と契約する、セットツアーの価格を国内並みにすること（日本は高い、ではダメ）など、満たすべき条件がある。

同時に、治療については反対している日本医師会との調整も欠かせない。

私は、北海道の自然は素晴らしく、中国の富裕層などを誘致する条件は整っていると思う。加えて、高度な医療（検診を含め）を受けられるとなれば、彼らの目は北海道に向けられるだろう。旅行業界、宿泊施設、病院など専門分野と協力体制を作り、北海道へのメディカルツアー誘致を目指しましょう。



## 新幹線駅を中心とした二次輸送網の確立と、付近での新しい街づくりを！

東海旅客鉄道相談役・須田寛氏



新幹線の経済効果は、工事に伴って地元へ落ちるカネ、観光客増加、地域開発効果などが挙げられよう。

北海道新幹線は、開業した新青森駅から新函館駅までの延伸が決まっている。新函館駅は今の函館駅から10キロ離れていて、更地に新駅が建設されることになる。

そこで提案したいのは、この新函館駅を中心とした鉄道、バスなどの二次輸送網をキチンと作ることである。今の札幌駅を中心とした交通網が、札幌はじめ近郊を発展させたように。それから、新函館駅

近辺に新しい魅力あふれる街を作ることだ。

札幌への延伸が、これからの大きな課題になっていて、南回りか北周りか議論があるようだが、北陸新幹線の福井から新大阪へのルートが3通りでいて、地元の意見が纏まらず着工が遅れてきているのをみると、早く地元の議論を集約することが大切だ。

リニア新幹線は、平成25年度に名古屋まで建設される予定。これができること、観光客の選択肢が広がり、北海道にもプラス効果が出てくるだろう。いまから、それを見据えた観光戦略を考えてほしい。

東京  
震が関発の最新情報  
国土交通省・総務省・財務省

街作りから観光に入り、観光庁のアドバイザーグループの一員として活躍する

YKK・YKKAP社長

吉田忠裕（よしだ・ただひろ）

富山県魚津市出身。1969年慶応大学法学部卒。72年ノースウエスタン大学経営大学院（ケロッグ）で経営学修士（MBA）を取得。同年吉田工業（現YKK）入社。企画室長、ファスナー事業部長などを経て85年副社長。93年現職。64歳。

「ファスナーや建材を作る会社の社長が観光問題に関係するようになったのはどんなことがあったのでしょうか？」

まったく偶然なんです。私の工場は富山県黒部市にあり、その商工会議所の会頭になっていただきたい、というお願いがありました。創業者の私のおやじの忠雄は「財界活動はしてはいけない」と言ってましたから断りました。ところがYKKさんとして、少しは地元へ貢献してください、という強い要請があり断りきれなくなりました。92年のことで当時商工会議所が502ある中で42歳で一番若い会頭になりました。条件として街づくりをやる、ということで就任しました。

「商工会議所の中で街づくりについて活動をしたのですか？」

金をかけないでどうしたらよい街づくりができるかをみんなで話し合いましたよ。私は東京に住んでいますから、話し合いのときはそうした線でまとめてほしいと言いつつなして帰ってしまいます。次のときにあの話はどうなった、という具合です。そうした話をまとめて96年末には商工会議所として黒部市長に提案書を出しました。その結果、「黒部街づくり協議会」ができて私が会長になりました。市民運動を始め、14のワークショップができました。こうした活動が認められて、当時の木村尚三郎・観光立国懇談会座長に呼ばれて話をしました。こうした縁で観光地の街づくりをしている人たちと知り合いました。

「YKKで産業観光をしている、ということですがどのようにしているのでしょうか？」

富山県の石井知事が当選した時に挨拶に行ったら、早く工場を見学する産業観光を始めほしいと頼まれました。どんな人が見たいと言っていますか？と聞くと中国や韓国などの人です。技術を見て本国で参考にしたいということでしょうね。ちょっと時間を下さい、ということで今の形のYKKツアーズというのを始めました。まず吉田忠雄記念室を見て専用のバスで工場を回って、丸屋根展示館でYKKの技術の歩みをみるという1時間30分のコースです。

「どの程度の観光客が来ていますか？」

工場の視察で技術の人が嫌がりました。うちはファスナーの機械は自社生産なのです。だから見せたくないということになり、バスで回ることになりました。08年で年間1万5千人の人が来てます。

「観光庁のアドバイザーグループとしてどのような発言をしていますか？」

私は観光にはコンテンツ（内容）が重要だ、ということをいつも言ってます。外国人観光客の数を増やせばよい、というのではなくもう一度来たい、という気にさせることが重要だと思います。これからの観光政策は、日本へのリピーターを増やすにはどうしたらよいかでしょうね。

（聞き手は経済ジャーナリストの阿部和義）

札幌市  
「歩道のロードヒーティング工事」

去る10月28日（金）開催の「第7回 観光立国フォーラムin札幌」に合せて、札幌を訪れた。例年のように旭川の「旭山動物園」に寄り、高速バスで札幌に入った。宿は「札幌グランドホテル」。宿泊人数の関係で、1泊平日3,600円、土・休日4,300円であった。



「札幌グランドホテル」を札幌駅に向かうと、昨年まで建っていた「日本生命の建物」の取り壊し工事が終わっており、白い仮囲いの板が廻らされていた。板に面した歩道も工事中であったが、工事用のレッドコーンで囲われた部分に、写真のようなロードヒーティング用の電線がはられていた。こんなロードヒーティングの構造が分かる状態を目にすることは、珍しいので写真を撮った。翌日にはもう舗装下地が施工され電線を見ることは出来なかった。千載一遇の機会であったようだ。

10年ほど前の5月、カナディアン・ロッキーの麓、カルガリーあたりをレンタカーで走ったとき、湖が凍っているのに道路には雪も氷も無かった。道路を暖める装置がしてあったのだろうか。

札幌市の市電には「ささら」という竹箒を外側に円筒状に束ねた除雪車が有名である。それゆえ、札幌市では、歩道や車道にロードヒーティングを装備しつつあるのかと思ひ、市に問い合わせた。問い合わせ先は市の雪対策室（011-211-2662）。

その結果。過去には勾配の急な車道に装備したことがあったが、今は保守のみで新設はしていない。さらに、歩道については全く予定していないとのこと。この「日本生命の建物」の建替え工事は、施工者の工事で、工事の許可だけを行なったものようであった。

（杉 行夫）

## アメリカ・こぼれ話 ⑩ 「ジャズの誕生」

JN協会理事 北村 嵩

ジャズはアメリカで誕生し、世界に広まった音楽のジャンルであるが、いつ、誰が、何処で始めたか明確ではない。しかし、その誕生にアメリカ南部の都市ニューオーリンズとそこで生活していた黒人及び西洋楽器が大きな影響を与えたことは間違いない。アフリカ起源の黒人特有のリズム感とヨーロッパ伝来の洋楽器の出会いが新しい音楽を創成したのである。

ニューオーリンズは北米大陸の中心部を縦断してメキシコ湾に流れ込むミシシッピ川の河口を数十キロ遡った所に位置し、18～19世紀を通じて南部一の貿易港であり、19世紀初頭まで史上最大規模の奴隷市場があった。18世紀前半のフランス領植民地時代からフランス人を中心にスペイン人、西インド諸島からの黒人奴隷、イギリス系、ドイツ系移民が交じり合い国際都市の様相を示していた。18世紀後半にスペイン領になった頃にはクレオールとかケイジャンと呼ばれる白人と黒人の混血児が一つの階層を形成し、アフリカ起源の音感と西洋音楽的な要素との融合に寄与し、ジャズ誕生に重要な役割を果たした。

南北戦争終了後、解放されて職を失った黒人が仕事を求めて辻にあふれ、質屋には元南軍の軍楽隊の楽器が大量に並んでいた。これらの払い下げ洋楽器にアフリカ伝統のバンジョーや手製のドラムやパーカッションを加えて、街角で演奏したり、冠婚葬祭

のにぎやかしとして街を練り歩いていたストリートミュージシャンに新しく安定した働き口を提供したのが、“ストリートヴィル”と呼ばれる市の歓楽街フレンチ・クォーターの娼館や酒場であった。黒人的な感覚のピアノ音楽「ラグタイム」を弾くピアノ奏者とブラスバンド系の楽器の演奏者との出会いがジャズの誕生に大きくかかわっている。音程のはっきりした音しか出せず、ある程度、西洋音楽の素養がないと弾けないピアノと唇や指の操作ひとつで音色や音程を変え、音を歪めたり、ゆすったり出来るブラスバンド系の管楽器や弦楽器という、体質的にそりが合いにくい楽器が黒人音楽の場でぶつかり合い、その二つ文化の見方、考え方が摩擦と軋轢を生み出し、ジャズを推進させ、活性化させる力の源となったのである。

## イタリア雑感

小田急電鉄(株)顧問 利光國夫  
(元小田急グループCEO)

今年私たち夫婦は金婚式を迎えた。結婚式を二回やる人はあるだろうが、金婚式を二回迎える人はまず居ないだろうから、ここはひとつ盛大にパーティをやるかと考えたものの、ご招待する方をどう決めるかで収拾が付かず取り止めにして、記念に南イタリア旅行をすることにした。

シチリア島、カプリ島を始め南イタリアの空は限りなく蒼く、ワインの味も極上だったが、この国のいい加減さは以前旅した北イタリアを上回っていた。ホテルの部屋の鍵は一度ではまず開かない。数多い貴重な史跡にはタバコの吸い殻や犬の糞があちこちに散らばっている有様で、日本では到底考えられない。一方で個々のイタリア人は私が接した限りでは好人物が多く、よく聞く釣銭のごまかしのような金銭面のトラブルは一度も無かった。思うにどうもイタリア人というのは個人的な才能を発揮するのは適しているが、組織や団体行動にはあまり適していないように感じられる。

第二次大戦でドイツの尻馬に乗って参戦するや連戦連敗、20年続いたファシズム体制はあっけなく崩壊して降伏したのもよくわかる。ファシスト党歌「ジョヴィネツア（青春）」はナチス党歌「ホルスト・ヴェッセル」に比べると陽気で軽快なオペラの合唱曲のように聴こえるが、この曲自体もオリジナルではなく既存の曲を借用して歌詞を付けただけなもの、いかにもイタリア的アバウトさである。

世界には色々な国や民族があるが、今回の旅は日本の良さを再認識させると共にイタリア人のおおらかで陽気な民族性もなかなか捨て難い魅力があることを教えてくれた。

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

## JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPAN NOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。



現在2010-2011年度版を発売、日本全国のホテル約100館、55000の客室に常備されています。

日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本の歴史といまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2010-2011年度版では、環境をテーマとした特集において「水」を中心に育まれてきた日本の暮らしのなかの伝統的な環境保全技術や自然とのかかわりを取り上げ、その将来への応用の可能性を探りました。また、巻頭インタビュー・ページでは、インテリアデザイナーの内田繁氏と女優の緒川たまき氏にご登場いただいています。

1部2000円（送料別）で購入できます。

お問い合わせは（株）ジャパン・ナウへ。

電話 03-5155-8940/FAX 03-5155-8941



3分野を一冊の本にまとめた意欲作品  
「そこが知りたい 観光・都市・環境」

お問い合わせはJAPAN NOW観光情報協会へ

## 食にまつわるエピソード

### ブータン紀行 (下)

筑波学院大学教授 大島慎子

8月末でブータンは雨期が終わり、観光シーズンになる。

ブータンで感心するのは公立小中学校の学生、公務員、観光業に従事する人達は、すべて民族衣装であることだ。住宅建築も独特の様式を継承している。自国の文化への自負心には敬服する。

一方、文化遺産でもあるチベット仏教の僧院には考えさせられる。5, 6歳の子供から僧院で修行をしているが、我々の感覚の修行とは多少異なるのである。僧院では数十人の子供から高校生くらいの修行僧が経を唱えているが、勤行がおわると庭にとびだして携帯電話や携帯ネットで交信している風景を何度もみた。

これは日本的に考える修行の場というよりも、地方の子沢山の家庭が僧院に子供を預けるといふ風習の延長線にあるようだが、インターネットが否応なしに入り込む環境において、僧院の生活は乱されることはないのか、という疑問がわく。一般の子供達が通う小学校も見学した。ひとクラス20名ほどで、英国のテキストで英語を完璧に学んでいる。将来は何をしたいか、と聞くと、日本、アメリカ、英国に留学したい、とか医者になりたいという子供が多かった。日本は土木工事等でブータンに相当貢献しているので親日感情はよい。農家に立ち寄ったところ、大きな仏間があった。どの家庭にもあるそうで、仏教国を実感した。

さて、外国人が宿泊するようなホテルは、清潔で居心地がよいが、地方都市はインフラ整備が遅れているようで、部屋には必ず「ろうそく」が用意されていた。停電の可能性があるのだ。また、旅行者が食事ができるような街のレストランは殆どなく、ホテルで食事をするようになっていく。ブータンビールはあるが、ワインは入手しにくい。そしてブータン料理の特徴は、トウガラシである。ブータンの5都市すべてで見たのが、エマダッツイ、唐辛子(エマ)とチーズの煮込みである。緑色の一見ピーマンの細切りをチーズで混ぜた感じであり、香りもマイルドなので食べてみると、辛いことこの上ない。殆どの料理にはエマが使われており、ケワダッツイー(じゃがいもと唐辛子の煮込み)、イズイ(唐辛子とチーズで和えたサラダ)など、唐辛子を使わないのはブータン料理では無いといえるくらいである。外国人には辛すぎるので、皿に赤米か白米を盛り、それと混ぜ合わせて食べることになるが、味はよい。



ブータンの小学校授業

自然の恵みと宗教に支えられたブータンが幸せの国であり続けることを祈りたい。

筑波学院大学教授 大島慎子

## C O L U M N

### 松の葉

「松の葉」といっても、あまりぴんとこない人が多かろう。わが国の移ろい行く四季の折々に、古より風流人が歌った日本人の繊細な感性は、「竹の葉」「笹の葉」「紅の葉」等々微妙な表現方が使われ、「葉」の一葉一葉にも日本のありのままの自然を優雅に映し出してきた。

「竹の葉」は野口雨情が民謡に謡ったし、「笹の葉」は泉鏡花がしばしば引用した。「紅の葉」とは「もみじ」を視覚的に美しく表した、日本人ならではの趣のある言葉である。

しかし、「松の葉」は「松葉崩し」や、その筋の強面の「松葉会」のようにあまり良い意味には使われない。ただ、これも樹木ともども雪を被ると風情は一転して見事なまでに冴え渡る。その「松の葉」には種類によって興味深く明確な違いがあるが、これが意外にも一般にはあまり知られていない。

松の木は、日本では英語で「ニードル (NEEDLE)」と呼ばれる松の葉(針)が2本で1束になっている場合が多い。ところが、「所変われば品変わる」の諺通り、遠目では普通の松でも、葉(ニードル)が2本で1束の松と、3本で1束の松が実際に存在する。五葉松は、5本の葉が1束になって緻密さと華やかさを加えた盆栽用にぴったりの松だが、普段市街や海山で見るとごくありきたりの松の木は、日本人はつい2本葉で1束だと思いがちである。だが、外国では必ずしもそうではない。

1975年アメリカ・テキサス州の高原都市で開催された「アメリカ自然食品協会全米大会」に日本からただひとり参加した時、あるアメリカ人紳士と松のニードルが2本か3本かで楽しい賭けを行った。紳士は近くの松林から松の3本葉を拾って、「どうだ!」と得意満面に突き出し私が兜を脱いだことがある。スウェーデンの松林で拾った松の葉もすべて3本だったが、レスピーギ曲に奏でられた「ローマの松」は2本だった。アジアでは比較的2本葉が多いが、韓国の世界遺産「仏国寺」の松は3本葉だった。どうやら葉の数は気候や土壌が影響しているようだが、決め手となる原因は分からない。皆さんも外国へ行ったら「松の葉」を手にとって、2本か3本葉か、ぜひ確かめてみてください。

(近藤 節夫)

## 城下町と観光 -23

## 長崎県／島原城

## 重税と凶作が重なり農民の抵抗が

## 島原城はキリシタン史料館に

J N協会参与 長宗我部 友親

島原半島一帯は、鎌倉時代から有馬氏が支配していたが、有馬晴信の時に、豊臣秀吉から島原半島一帯と長崎の浦上を領地として認められた。

その後、慶長5年（1600年）に起こった関ヶ原の戦いで、晴信は徳川家康について、領地を安堵される。

ところが、慶長14年（1609年）12月にポルトガル船を有馬晴信が長崎港外で撃沈してしまうという事件が起こった。



島原城

この事件がからんだ出来事により、晴信は甲斐国に配流されることとなる。また晴信ら事件関係者がキリシタンだったことなどから、幕府は

キリシタンの禁制にも踏み切る。

晴信の嫡男の直純も一時は晴信の領地を継いだものの、結局は日向国に転封となり、有馬氏の島原支配は終焉した。

しばらくの間、島原は天領となったが、元和2年（1616年）に大和国から松倉重政（まつくら・しげまさ）が入り、島原城を築城した。松倉氏は藩の体制強化に乗り出し、城下町の造営にも本格的に取り組んだ。



島原

問われて、当時の城主勝家は除封となる。

その後、西国大名の目付役も兼ねて、譜代大名の高力忠房（こうりき・ただふさ）が遠江国浜松から島原に入る。忠房は島原の乱で荒廃した土地の復興に努めたが、その嫡子の隆長（たかなが）は遊興にふけり、農民の反発をかい、領地を没収され、仙台藩のお預けとなる。

高力氏改易後は、丹波国福知山から松平忠房（まつだいら・ただふさ）が入封する。しかし、松平氏の時代も天災や疫病などが起こる。このように島原藩の治世は厳しい時代が続いた。

しかし、南国島原の海は美しく、島原城の天守閣も見事だ。そして、その天守閣は現在は島原の資料館となっていて、キリシタン関係の資料が豊富に収められている。



西武に代わりルミネ(中央)が入った有楽町マリオン

## NEW SPOT

in japan 29

## マリオン変身

東京・有楽町マリオンの西武百貨店が去った跡にJR系列のルミネ有楽町店が入り2011年10月28日新装オープンし、同じマリオンの有楽町阪急も15日、男性に特化した衣料・雑貨専門「阪急MEN'S TOKYO」に変身した。有楽町から銀座にかけてITOCiA、三越、松屋、松坂屋、プランタンなどと競い、銀座・中央通りに出店したUNIQLOも人気を呼び商戦乱戦必至だ。

ルミネは地下2階から地上4階と8階までの2棟で、20代後半から30代の女性をターゲットに洋服、雑貨やフィットネスなど107店が入る。開店日は平日でも約5,000人の客が並んだ。連日11～21時の営業で、地下のスーパーは10～22時、カフェは7～23時、週末は少しずらすなど時間に幅を持たせた。阪急は地下1階～地上8階で、月～土の正午～21時、日祝は11～20時とし、ビジネスマンや富裕層を誘い込む。

銀座の玄関口、有楽町界隈は、かつて朝日、毎日、読売各新聞社の輪転機が回り、国鉄の駅前には戦後すぐ、木造100余りの飲食店が並ぶスシ屋横丁で賑わった。横丁は再開発で68年に取り壊され、いま東海道新幹線が走るガード下は焼き鳥、寿司、天ぷら、ラーメン、居酒屋など往時を懐かしむ飲食店の「名店」が並び、庶民の客を呼ぶ。泥臭いが親しみあふれるガード下とその周辺に、最先端ファッションの洗練された街並みが交差してニッポン復活の狼煙（のろし）を上げる。

(文・写真 林 莊祐)

**NPOから提案します**

**「クール加賀300万人」構想**

**JN協会理事 加賀市長 寺前秀一**

市長選挙で、加賀市の観光客を300万人するというマニフェストを掲げました。最盛期400万あった入湯客が現在200万人にまで減少しています。300万人は直感で決めたもので、科学的根拠はありませんが、政策努力目標としては妥当なものと思っています。

加賀温泉郷の顧客は、関西3割、中京2割、近隣2割で東京圏は1割以下です。効果的観光政策達成のためには、兵力の逐次投入は避けなければなりませんから、北陸新幹線金沢暫定開業を契機に、東京圏の成熟世代(特に女性富裕層)に注力することは、合理的です。青山にある高級レストランでの坂網猟天然鴨料理の披露を皮切りに、古九谷産地論争(伊万里焼であったとする説への反論)をしかけます。市内を大聖寺藩10万石の赤瓦色の統一感のもと、山中、山代、片山津の各温泉地も加賀温泉郷として統一感あるものに編成します。死生観への興味と健康指向が強くなる首都圏団塊の世代をターゲットに、白山平泉寺、永平寺、吉崎御坊、大聖寺山の下寺院

群を越前加賀宗教文化街道として整備します。

温泉地進化論を展開すれば、別府はアメリカに学び、新聞を媒体に大衆をターゲットとし、由・湯布院は欧州に学びテレビを媒体に女性客をターゲットとし、黒川は信州に学びネットを媒介に若者をターゲットとし、順次発展してきました。加賀温泉郷はこれらの3温泉と比較すれば歴史文化資源、食材に恵まれた地域ですが、長く観光客イコール温泉宿泊客の発想から抜けきれませんでした。これからは口コミを媒介に首都圏成熟世代をターゲットに、橋立、片野、大聖寺、東谷といった地域資源に光を当てた、超「温泉」政策を展開したいと思っています。

全国の自治体は、観光大使、ボランティアガイド、B級グルメ、着地型旅行商品の開発等金太郎飴的に施策を展開していますが、宿泊客獲得の地域モデル開発には苦勞しています。この点温泉地加賀市は苦勞がありません。むしろ地域資源の活用に力点を置き、滞在型日帰り客の獲得にも注力すべきと考えていますし、この点が解決できれば300万人達成は可能であります。

**アメリカ旅行通信①**

**ヨセミテ国立公園を訪ねて**

5月下旬のサンフランシスコは太平洋を流れる寒流のせいもあって、まだ冬から脱しきらないような寒さだった。そこでの会議を終えると早速レンタカーを借りて、ヨセミテ国立公園へと向かった。久しぶりのアメリカでのドライブは多少緊張気味にスタート。ナビを使ってのドライブなので道に迷う恐れはないが、一体どこをどう走っているのかは不安ではあったが、事前学習で得た知識からは逸脱していないように思う。

サンフランシスコからヨセミテ国立公園へは約5時間という。が、2時間も走るとヨセミテ国立公園近くの町に到着。そこからがむしろ大変だった。車はいよいよヨセミテバレーの中へと入っていく。真っ青に晴れた空、緑の森と特徴を持ついくつもの岩山、そして滝が次々と視界に入ってくるが、じっくりと景色を楽しむ余裕もなく、ひたすら片側一車線のドライブに集中。その夜はヨセミテバレーの奥にあるアワニーホテルに滞在する予定でもあり、観光は後で楽しもうと必死のドライブ。もちろんすきあらば追い越そうと、ぴたりと後ろにつけて走ってくる車への競争心は忘れて。

アワニーホテルは素晴らしかった。1920年代に建てられたというホテルはアメリカ人にも人気のホテ

ルで予約を取るのも難しいと言われている。このホテルの予約ができたことがヨセミテへの旅を決めた一つの理由でもあった。木と歴史を感じさせるファブリックでデザインされた内部は落ち着きとエレガントさを醸し出す。部屋は決して豪華に飾り立てられているのではないが居心地がよい。窓から見えるヨセミテの自然も素晴らしく、これらが一体となって訪れる人々をもてなしてくれる。もてなしといえればレストランでの食事もおいしかったが、何よりウエイターのもてなしがうれしかった。

(井上加嘉子)



ヨセミテ国立公園

**【会員募集】** 都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、 団体会員(1口5万円)  
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階  
JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

**会員の投稿を歓迎します** 情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2012年1月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2012年1月25日。締め切りは2012年1月10日。

## つるべ落としの気温

11月は夕暮れの早さで秋の深まりを感じ、東日本だけでなく西日本からも紅葉のたよりが届く月です。

また、1年でもっとも気温の下がり方が大きい月でもあります。日が暮れると気温も急速に下がり、朝方の最低気温は日に日に低くなって、下旬には北海道の朝方の気温は氷点下の所が多くなります。

平年の最低気温の変化を見ると、ひと月で5度から6度も下がる所が多くなります。東京や鹿児島では、月初めの最低気温は12度から14度くら



いです。しかし、月末には7度から8度くらいまで下がり、暖房が欲しいくらいの気温です。仙台では月初めの最低気温は8度くらいですが、月末には3度くらいになります。3度の気温とは霜がおりたり、晴れて放射冷却が強まると思いのほか冷え込んで氷が張ったりします。

11月は気温の低下が顕著で、色づいた葉もやがて落葉し、街ゆく人びとも上着からコートにマフラー姿が多くなります。北国では雨ではなく雪の降る日が増え、日本列島は秋からいっきに冬の気配が増す月です。

以上  
日本気象協会 金野 雅之

## 会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

- 名誉顧問 : 松山善三(映画監督)  
 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、元日本鉄道建設公団総裁)  
 顧問 : 丹羽辰(前理事長、日本空港ビルデング顧問)  
 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元JALUX特別顧問)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)  
 支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麗理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)

## 【団体会員】(2011年11月25日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)えんれいしや、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャントウ、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマサタパサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ディーエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、医療法人社団同友会、トヨーカネットソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロクジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、ブラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルトロピカン、前田建設工業(株)、(株)ホテルリックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

## 編集後記

広大な穀倉地帯が広がるアメリカの農業は、世界各国へ小麦、大豆、トウモロコシなどを輸出し、大国の地位を維持しているが、そのアメリカで農地が世界的な穀物価格の上昇や金融緩和によって投資商品になっているという。長大河川のミシシッピ川沿岸は大穀倉地帯として知られ、コム、小麦、大豆などが大企業によって生産され、穀物商社カーギルなどから日本にも輸出されており、穀物自給率の低い日本にとってもアメリカの農地への投機マネー流入は、無関心ではいられない。例えばアイオワ州では大豆やトウモロコシ畑、約240エーカー(約1平方キロメートル)のオークションが開かれ、約100人が参加した。1エーカー9000ドルからの競りは1時間で1万2000ドルに跳ね上がった。

シカゴ付近でも農地価格が前年比で20%上昇し、カリフォルニア州にも農地の投資対象地域が広がっている。小麦、大豆、トウモロコシといった基幹食糧は新興国の経済発展によって需要が増え、しかも地球温暖化のため米国以外の穀物の主要生産国で洪水、干ばつによる不作が続いており、アメリカでの農地投機は食糧の安定供給に大きな不安材料となっている。(白澤)

## 特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

**JAPAN NOW**  
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長: 白澤照雄(JN協会事務局長)

発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、

地方自治体、民間企業、マスコミなど